

介護ロボット導入効果報告書

(1年目 ・ 2年目 ・ 3年目)

法人名 社会福祉法人 井ノ口会
施設名 あんずの里
施設の種別 地域密着型介護老人福祉施設入居者生活介護

1 導入したロボットについて

機器の種別	メーカー名	機種名
2 移乗支援機器(非装着型)	株式会社 FUJI	Hug T1-02
導入台数	導入(納品)時期	リース・レンタルの契約期間
1 台	令和 3 年 12 月 20 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

2 使用状況について

【介護ロボットの使用状況(使用する場面・使用頻度等)】 ※日々の利用状況が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。 ・排泄時の車イスからの移乗介助・・・3～4回／日、対象者3名 ・ベッドからの離着床・・・6～8回／日、対象者1名 ・入浴時の移乗介助・・・週2回の入浴時に3～4回、対象者1名
--

3 導入によって得られた効果

【目標の達成状況】 ※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)が、どの程度達成できたのかについて記載すること。 ・職員の腰への負担・・・人力での抱え上げが不要となり、全職員より好評を得ている。 ・介助の人手について・・・「2. 使用状況について」に記載した場面・頻度の都度、これまで職員2名体制で介助を行っていたところを、当該ロボットの導入によって1名で実施できていることから、当初目標通りの業務効率・人的省力化を達成することができたと考ええる。
【介護ロボットの導入効果】 ※介護時間の短縮、直接・間接的な負担軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等を具体的に記載すること。 ・介護職員及びご利用者の双方より、安心・安全に身体的負荷なく介助できているとの意見や感想を得ており、満足度は十分に満たされている。 ・ボタン類の操作箇所がシンプルに作られているため、技能実習生等の外国人スタッフにも比較的スムーズに使用してもらうことができ、当初想定以上に有効であった。

4 その他

【介護ロボットの不都合な点等】 ※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関することなど具体的に記載すること。 ・当該ロボットはベッドや車イスからの移乗を想定しているため、離着床の介助時に本来であれば使用が望ましいと思われるご利用者であっても、本人の希望により床で布団を使用されているケースでは使用できなかった。

介護ロボット導入効果報告書

(1年目 ・ 2年目 ・ 3年目)

法人名 株式会社ユタカメディカシステムズ
施設名 ゆかりの郷訪問介護ステーション花園
施設の種別 訪問介護

1 導入したロボットについて

機器の種別	メーカー名	機種名
2 移乗支援機器(非装着型)	株式会社 FUJI	移乗サポートロボットHug T1-2
導入台数	導入(納品)時期	リース・レンタルの契約期間
2 台	令和 3 年 11 月 30 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

2 使用状況について

【介護ロボットの使用状況(使用する場面・使用頻度等)】

※日々の利用状況が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。

・体重の重い方はもちろん、脚力がない利用者様にベッドから車いすへの移乗、車いすからリフト浴チェアへの移乗など、幅広く活用している。

3 導入によって得られた効果

【目標の達成状況】

※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)が、どの程度達成できたのかについて記載すること。

・Hugを利用することにより、移乗作業を原因とした腰痛発症を防御することができている、また、腰痛による離職ゼロを目標としているが現在のところ達成している。

【介護ロボットの導入効果】

※介護時間の短縮、直接・間接的な負担軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等を具体的に記載すること。

・2人介助にて移乗が必要であったケースが、1人に対応できるようになり、結果として介護の効率が高まったことを感じる。

・腰への負担軽減はかなり大きく効果を感じる。

4 その他

【介護ロボットの不都合な点等】

※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関することなど具体的に記載すること。

・移乗の際、居室までロボットを運ぶ準備が必要、または充電が必要でありケースによっては介護効率が落ちる場合がある。

介護ロボット導入効果報告書

(1年目 ・ 2年目 ・ 3年目)

法人名 社会福祉法人 千寿会
施設名 特別養護老人ホーム 千寿の里
施設の種別 介護老人福祉施設

1 導入したロボットについて

機器の種別	メーカー名	機種名
2 移乗支援機器(非装着型)	マッスル株式会社	ロボヘルパーSASUKE
導入台数	導入(納品)時期	リース・レンタルの契約期間
2 台	令和 3 年 12 月 30 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

2 使用状況について

【介護ロボットの使用状況(使用する場面・使用頻度等)】
※日々の利用状況が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。

特定の利用者4名の居室前廊下に配置し、毎食時のベッドからの離床・臥床の移動介助に使用する。

3 導入によって得られた効果

【目標の達成状況】
※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)が、どの程度達成できたのかについて記載すること。
非常勤・正規職員問わず、SASUKEの操作を行えるように職場にロボットが浸透した。
令和3年度～令和6年3月、腰痛で労災になる職員が0人であった。
移動介助を職員2人で行う利用者の減少を50%達成できた。

【介護ロボットの導入効果】
※介護時間の短縮、直接・間接的な負担軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等を具体的に記載すること。
導入前は、立位保持が保てない利用者を職員2人介助で行っていたため、2人職員が揃うまで待つ時間が発生していたが、ロボット導入後は、一人介助で行えるため時間短縮となり、また人力ではなくロボットが利用者の昇降をリモコン操作一つで自動で行ってくれることの介護負担軽減効果は非常に大きい。
妊娠中の介護職員も積極的に使用しており、これまで妊娠中の移動介助は懸念課題であったが、解決できている。
体重の大きい利用者もロボット導入によって、一人介助で問題なく行えることは、利用者側も気を遣わず介護が依頼でき、良好な関係を築きやすくなった。

4 その他

【介護ロボットの不都合な点等】
※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関することなど具体的に記載すること。
重量が65kgあるロボットのため、小回り操作に難があり、居室内でベッド・家具に接触しないように操作することが難しい。
ロボットの重量が大きい為、ロボットをいろんな居室に移動して使用することにも難があり、一定の居室に配置して使用する形となっている。

介護ロボット導入効果報告書

(1年目 ・ 2年目 ・ 3年目)

法人名 社会福祉法人 千寿会
施設名 千寿の里デイサービスセンターB型
施設の種別 通所介護

1 導入したロボットについて

機器の種別	メーカー名	機種名
2 移乗支援機器(非装着型)	株式会社FUJI	HugT1-02
導入台数	導入(納品)時期	リース・レンタルの契約期間
1 台	令和 4 年 3 月 10 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

2 使用状況について

【介護ロボットの使用状況(使用する場面・使用頻度等)】
※日々の利用状況が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。

主に要介護度が重い利用者の入浴支援時に移動介助具として、利用している。
また、大柄な利用者のトイレ誘導時に障害者トイレにて移動介助具として利用も行っている。

m

3 導入によって得られた効果

【目標の達成状況】
※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)が、どの程度達成できたのかについて記載すること。
導入前は、移動介助を行う際に職員2人揃ってから行っていた介助をHugの導入で適宜利用者をお待たせすることなく、介助に移ることができ、利用者満足度と介護職員の業務効率を上げることができている。
入浴介助を行う職員数を減数することはできていないが、Hugの導入で、入浴終了時間を15分短縮することができるように業務改善できた。(昼食提供時間間際まで入浴を行っていた為、利用者にも負担がかかっていたところを入浴後少し休憩を取ってから食事を提供できるように改善した)

【介護ロボットの導入効果】
※介護時間の短縮、直接・間接的な負担軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等を具体的に記載すること。
入浴介護にかかる時間を短縮することができたことで、職員も休憩時間を遅延することなく休憩に入ることができ、介護負担の軽減に繋がった。
令和5年度、職員の腰痛での欠勤がゼロであった。
体重の大きい利用者の方や要介護度の大きい利用者の方も気兼ねなく、移動介助を依頼することができるようになった。

4 その他

【介護ロボットの不都合な点等】
※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関することなど具体的に記載すること。
利用者が足を載せるHugの下まわりの部分が車椅子によっては車椅子のフットレストに当たってしまい、使用が難しいところがあることが分かった。どの車椅子にも簡単にセッティングができることが望ましい。

介護ロボット導入効果報告書

(1年目 ・ 2年目 ・ 3年目)

法人名 有限会社エスランケア
施設名 グループホームささゆり
施設の種別 認知症対応型共同生活介護

1 導入したロボットについて

機器の種別	メーカー名	機種名
2 移乗支援機器(非装着型)	株式会社FUJI	HugT1-02
導入台数	導入(納品)時期	リース・レンタルの契約期間
2 台	令和 4 年 9 月 22 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

2 使用状況について

【介護ロボットの使用状況(使用する場面・使用頻度等)】
※日々の利用状況が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。

歩行困難、車いす移動の入居者を、ベッド若しくは車いすから介護ロボットを使用してトイレまで移動し排泄支援をする。
1名の利用者に一日平均して昼間4回 夜間3回程度使用する。

3 導入によって得られた効果

【目標の達成状況】
※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)が、どの程度達成できたのかについて記載すること。

目標 : ① 職員の身体的負担軽減と介助に必要な人員の合理的な削減
② 入居者の立位保持機能の獲得
達成状況 : ①はほぼ9割程度は達成できた。
②は達成率0%。立位保持困難な状態。

【介護ロボットの導入効果】
※介護時間の短縮、直接・間接的な負担軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等を具体的に記載すること。

* 2人でする作業が1人で出来る様になり、人員の削減ができた。
* 立ち上がり・立位保持・歩行の困難な入居者に対して排泄支援でズボンを下げる時、入居者の立位を保持する労力がなくなった。
* 入居者は、支えてもらう時の気兼ねが無くなったと言う。

4 その他

【介護ロボットの不都合な点等】
※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関することなど具体的に記載すること。

* 保管場所の確保が難題です。
* 現在、職員の指示に従って動ける入居者なので不便はないが、指示が通じない入居者に対してはロボットの使用が困難になる可能性がある。
* 排泄支援で入居者の体重を支える時に感じる体温の温かみがなくなった。
* リモコン操作時、入居者から目を離さなければならない。

介護ロボット導入効果報告書

(1年目 ・ 2年目 ・ 3年目)

法人名 医療法人社団誠道会
施設名 各務原リハビリテーション介護医療院
施設の種別 介護医療院

1 導入したロボットについて

機器の種別	メーカー名	機種名
2 移乗支援機器(非装着型)	株式会社Fuji	HugL1-01
導入台数	導入(納品)時期	リース・レンタルの契約期間
4 台	令和 4 年 9 月 16 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

2 使用状況について

【介護ロボットの使用状況(使用する場面・使用頻度等)】
※日々の利用状況が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。

使用場面:トイレ誘導・入浴時の移動・起床と就寝時の移乗。
介護医療院3F・4F・5Fと浴室にて使用している。
対象人数:5名(令和6年3月時点) 3月の使用実績732回/月

3 導入によって得られた効果

【目標の達成状況】
※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)が、どの程度達成できたのかについて記載すること。

①「職場環境の改善を図る」については、意見を吸い上げてもらえるという意識付けができたので、「5S」などにも取り組めるようになってきた。(達成度80%)
②「業務負担の軽減」については、対象者が想像していたより少なかったので、達成度としては50%程度と思われる。

【介護ロボットの導入効果】
※介護時間の短縮、直接・間接的な負担軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等を具体的に記載すること。

①トイレ誘導には、車椅子にのりかえることなく、移動ができるので時間短縮になる。
②使用できる人での満足度は高いが、使用できる対象者が限定され少ない。

4 その他

【介護ロボットの不都合な点等】
※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関することなど具体的に記載すること。

両手でしっかりハンドルをつかむことのできる方しか使用できないので、麻痺のある方に使えるロボットがあるとよい。

介護ロボット導入効果報告書

(1年目 ・ 2年目 ・ 3年目)

法人名 株式会社 経友会
施設名 藤の里「結い」小規模多機能ホーム
施設の種別 小規模多機能型居宅介護

1 導入したロボットについて

機器の種別	メーカー名	機種名
2 移乗支援機器(非装着型)	株式会社FUJI	移乗サポートロボットハグT1-02
導入台数	導入(納品)時期	リース・レンタルの契約期間
1 台	令和 4 年 9 月 30 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

2 使用状況について

【介護ロボットの使用状況(使用する場面・使用頻度等)】

※日々の利用状況が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。

全介助で車椅子利用中の利用者がトイレ使用する際に使用している。トイレ出入口付近で車椅子からハグを使用して立位ポジションになっていただき、トイレへ移動。便座前でズボン等を下げハグを操作して便座に座っていただく。排泄後はハグを操作して便座から立位ポジションになっていただき臀部等を清拭、その後ズボン等を上げた後、車椅子まで移動しハグを操作、車椅子に座っていただく。

3 導入によって得られた効果

【目標の達成状況】

※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)が、どの程度達成できたのかについて記載すること。

ハグを使用する利用者自体は1名と現在は少ないが、対象利用者の排泄介助の際は使用必須の状況であり、ハグが利用できることで利用者のトイレでの排泄介助が継続できている。2人介助で1人が利用者を抱える動作がなくなり、介護負担軽減につながっている。ハグを使用した際の事故も現時点で0件となっており、安全に移乗動作が行えていると捉えている。

【介護ロボットの導入効果】

※介護時間の短縮、直接・間接的な負担軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等を具体的に記載すること。

介護時間の短縮にはつながらないが、1名で排泄介助が完結できることから効率化向上につながっている。腰痛等を訴える職員も少なくなり、利用者のトイレでの排泄介助が継続できQOLが向上し、なくてはならないロボットになっている。

4 その他

【介護ロボットの不都合な点等】

※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関することなど具体的に記載すること。

上肢に拘縮等がある場合は、時間をかけてゆっくり確実にハグの使用前準備を行わないとアームからずり落ちてしまう危険がある。左右両アームに利用者の上肢を被せる動作がやや難しい場合があり、その点が不都合な点である。

介護ロボット導入効果報告書

(1年目 ・ 2年目 ・ 3年目)

法人名	社会福祉法人千代田会
施設名	特別養護老人ホーム喜久寿苑
施設の種別	介護老人福祉施設

1 導入したロボットについて

機器の種別	メーカー名	機種名
2 移乗支援機器(非装着型)	株式会社マッスル	ロボヘルパーSASUKE
導入台数	導入(納品)時期	リース・レンタルの契約期間
2 台	令和 4 年 11 月 22 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

2 使用状況について

【介護ロボットの使用状況(使用する場面・使用頻度等)】 ※日々の利用状況が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。 ご利用者の離床・起床時に使用する。 2～3ヶ月前までは、ベッド上で穏やかに休まれるご利用者が多く、ほぼ毎日使用していた。 現在は、ロボットによる移動を理解できるご利用者がいないため、フロア内での使用を休止している。
--

3 導入によって得られた効果

【目標の達成状況】 ※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)が、どの程度達成できたのかについて記載すること。 現場職員は導入初期の段階と捉えており、使用することで介助者の身体的負担が減り、職員・ご利用者にとって安心安全なサービスができることは理解しているが、使用準備のわずらわしさもあってか、これまで通り抱きかかえて離着床している。
【介護ロボットの導入効果】 ※介護時間の短縮、直接・間接的な負担軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等を具体的に記載すること。 メーカーよりオンラインでの説明会は少人数に分けて複数回実施しているが、職員全体としての修練度が追い付かず、介護ロボットの使用に自信がない職員が多い。 その結果、実際の使用時には職員が何人も集まって実施していることが多く、かえって効率が悪くなっている。(使用頻度が増えれば、効率面の問題は解決できると思われる) 介護ロボットを使用するよりも「人力での移乗介助の方が短時間で介助ができる」との現場判断から介護ロボットが活用できておらず、抱きかかえによる介護がたたり腰痛が悪化している職員が増え、負担軽減につながっていない。

4 その他

【介護ロボットの不都合な点等】 ※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関することなど具体的に記載すること。 介護ロボットの導入目的が現場介護職員に浸透していないことが活用を妨げる原因と思われる。 職員の腰痛予防及び移乗介助への対応職員の省力化が導入目的であり、時間短縮が主目的ではない。 時間に追われながら業務に当たる中で、ロボット操作に慣れる前に時間効率や利用者の反応から使用を中止してしまっている。 3年目は、現場職員に導入目的・操作方法を理解してもらった上で、他エリアでの介護ロボット活用を行う予定。

介護ロボット導入効果報告書

(1年目 ・ 2年目 ・ 3年目)

法人名 社会福祉法人みどり福祉会
施設名 特別養護老人ホーム あんきの家細畑
施設の種別 介護老人福祉施設

1 導入したロボットについて

機器の種別	メーカー名	機種名
2 移乗支援機器(非装着型)	株式会社 FUJI	移乗サポートロボHUG
導入台数	導入(納品)時期	リース・レンタルの契約期間
2 台	令和 4 年 9 月 16 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

2 使用状況について

【介護ロボットの使用状況(使用する場面・使用頻度等)】
※日々の利用状況が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。

・ベットから、車椅子への移乗介助の時。車椅子から、ベットへの臥床の時 車椅子から、トイレの便座への移動時。便座から、車椅子への移動介助時。車椅子から、入浴用シャワーチェアーへの移動時。シャワーチェアーから車椅子への移動時。

3 導入によって得られた効果

【目標の達成状況】
※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)が、どの程度達成できたのかについて記載すること。

・ご本人様の、掴まる力(握力)と、足裏をしっかり付け膝を伸ばす姿勢を、移乗サポートロボを使用する時だけでも、残存機能の保持に役立っている。職員が抱える介護量が減りほぼ目標達成している。

【介護ロボットの導入効果】
※介護時間の短縮、直接・間接的な負担軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等を具体的に記載すること。

・介護時間の短縮はあまり感じないが、操作の慣れで、手早く出来るようになってきて使用する事にて以降は無くなってきている。直接利用者様に触れる機会が少なくなり皮膚トラブルの軽減に繋がっている。

4 その他

【介護ロボットの不都合な点等】
※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関することなど具体的に記載すること。

・トイレスペースや、居室内家具などの配置の加減で使用する際にはHUGが大きすぎて操作しづらいと感じる。

介護ロボット導入効果報告書

(1年目 ・ 2年目 ・ 3年目)

法人名 社会福祉法人 千寿会
施設名 特別養護老人ホーム 千寿の里
施設の種別 介護老人福祉施設

1 導入したロボットについて

機器の種別	メーカー名	機種名
2 移乗支援機器(非装着型)	株式会社FUJI	HugT1-02
導入台数	導入(納品)時期	リース・レンタルの契約期間
3 台	令和 5 年 3 月 1 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

2 使用状況について

【介護ロボットの使用状況(使用する場面・使用頻度等)】
※日々の利用状況が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。

特養利用者80名の内、移動介助支援が必要な方が70名みえる中、Hugを使用してトイレ・入浴時の立位保持の移動介助に於いて44名の方がHugを利用している。

3 導入によって得られた効果

【目標の達成状況】
※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)が、どの程度達成できたのかについて記載すること。
導入前は、移動介助を行う際に職員2人揃ってから行っていた介助をHugの導入で適宜利用者をお待たせすることなく、介助に移ることができ、利用者満足度と介護職員の業務効率を上げることができている。
入浴介助を行う職員数を減数することはできていないが、Hugの導入で、要介護度3以上の重度者の入浴介助を行う介護負担が軽減できている。
導入前は、入浴介護を2日間続けて行うことが、介護職員の意見より不可となっていたが、導入後は介護負担量が減少したため、連日可能との結果に変化し、バランスの良い安定した勤務表を作成することができるようになった。

【介護ロボットの導入効果】
※介護時間の短縮、直接・間接的な負担軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等を具体的に記載すること。
体重の大きい利用者の方や要介護度の大きい利用者の方も気兼ねなく、移動介助を依頼することができるようになった。
移動介助を職員2人揃うまで待つ必要がなくなり、トイレ介助および臥床介助の時間がそれぞれ10分程短縮できるようになった。この空いた時間で、利用者との談笑の時間を介護職員は図れる時間が拡大し、心理的余裕が生まれることで、介護の精神的疲労負担が減少した。

4 その他

【介護ロボットの不都合な点等】
※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関することなど具体的に記載すること。
利用者が足を載せるHugの下まわりの部分が車椅子に寄っては、車椅子のフットレストに当たってしまい、使用が難しいところがあることが分かった。どの車椅子にも簡単にセッティングができることが望ましい。

介護ロボット導入効果報告書

(1年目 ・ 2年目 ・ 3年目)

法人名 社会福祉法人 千寿会
施設名 ケアハウス千寿の里西小田
施設の種別 特定施設入居者生活介護(軽費老人ホーム)

1 導入したロボットについて

機器の種別	メーカー名	機種名
2 移乗支援機器(非装着型)	株式会社FUJI	移乗サポートロボットハグ
導入台数	導入(納品)時期	リース・レンタルの契約期間
2 台	令和 5 年 3 月 1 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

2 使用状況について

【介護ロボットの使用状況(使用する場面・使用頻度等)】
※日々の利用状況が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。

・立位困難な入居者様のトイレ誘導時に使用している。
・介護者が抱えるのが困難な入居者様のベッドから車椅子への移乗時に使用している。

3 導入によって得られた効果

【目標の達成状況】
※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)が、どの程度達成できたのかについて記載すること。

・立位困難な入居者様に対して、トイレを利用した排泄を促すことができるようになった。
・2人介助で移乗していた入居者様をひとりで移乗できるようになり、身体的負担が減り、業務を効率的に行えるようになった。

【介護ロボットの導入効果】
※介護時間の短縮、直接・間接的な負担軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等を具体的に記載すること。

・失禁しやすくオムツを使用している入居者様をトイレ誘導、排泄を促すことができるようになったことで失禁が減少した。
・抱えるのが困難な入居者様の移乗も身体的負担が減り、事故のリスクも軽減した。

4 その他

【介護ロボットの不都合な点等】
※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関することなど具体的に記載すること。

・膝をあてるクッション部分が凸型なので、足を開くことが困難な入居者様には使用しづらい。

介護ロボット導入効果報告書

(1年目 ・ 2年目 ・ 3年目)

法人名 社会福祉法人 浩仁会
施設名 グループホームIB
施設の種別 認知症対応型共同生活介護

1 導入したロボットについて

機器の種別	メーカー名	機種名
2 移乗支援機器(非装着型)	株式会社FUJI	Hug L1-01
導入台数	導入(納品)時期	リース・レンタルの契約期間
1 台	令和 4 年 11 月 11 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

2 使用状況について

【介護ロボットの使用状況(使用する場面・使用頻度等)】
※日々の利用状況が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。

立位保持が出来ない入居者を対象者として、主にトイレでの排泄介助時に使用した。
ベッド⇄トイレの便座、車いす⇄トイレの便座への移乗時に使用するとともに、排泄後の後始末や、リハビリパンツや下着、ズボンを履く等の排泄支援時に活用出来た。

3 導入によって得られた効果

【目標の達成状況】
※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)が、どの程度達成できたのかについて記載すること。

立位保持が出来ない入居者様に使用することで、安全に移乗が出来るようになった。
入居者様は、前のバーを自身で持ち、両脇をHugに支えてもらうことで、安心した移乗となる。
介護者は、操作が簡単で、なおかつ、入居者様を持ち上げ保持することなく一人で介助出来る為、身体負担、人的負担軽減が図れた。

【介護ロボットの導入効果】
※介護時間の短縮、直接・間接的な負担軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等を具体的に記載すること。

・立位保持が困難な入居者様であっても、Hugを使用することで、継続的にトイレでの排泄が行えるため、入居者様の尊厳の保持が出来、ケアの質の向上につながっている。
・これ迄二人対応でないと移乗・排泄介助が出来なかった入居者様に対し、一人で安全・安楽に介助が出来るため、ヘルプを呼ぶことが無くなり、人員配置が楽になった。
・介助者が、抱えて移乗しなくても良くなったため、身体的(特に腰)負担の軽減が図れている。

4 その他

【介護ロボットの不都合な点等】
※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関することなど具体的に記載すること。

簡単な操作ではあるが、入居者様の理解度によっては、工夫が必要である為、そのことに慣れるまでにある程度の時間を要すること。

介護ロボット導入効果報告書

(1年目 ・ 2年目 ・ 3年目)

法人名 社会福祉法人墨友会
施設名 特別養護老人ホームサンヴェール大垣
施設の種別 介護老人福祉施設

1 導入したロボットについて

機器の種別	メーカー名	機種名
2 移乗支援機器(非装着型)	株式会社FUJI	Hug
導入台数	導入(納品)時期	リース・レンタルの契約期間
1 台	令和 4 年 12 月 9 日	令和 年 月 日から 令和 年 月 日まで

2 使用状況について

【介護ロボットの使用状況(使用する場面・使用頻度等)】

※日々の利用状況が確認できる日誌等を活用して、具体的に記載すること。

身体の方や1人介助では難しい方の移乗、トイレ介助に主に使用している。また入浴時に使用できないか試しているところである。

3 導入によって得られた効果

【目標の達成状況】

※介護ロボット導入により達成すべき目標(3年間目処)が、どの程度達成できたのかについて記載すること。

負担の多い移乗介助方法の見直しを行うことにより、介護職員の身体的負担の軽減につながっている。2人介助で行っていた介助を1人で行えるようになり、業務効率が上がっている。また、抱えない介助を実践することにより、職員の意識に変化もあり、スライディングボードやスライディンググローブなどを積極的に活用できるようになった。利用者の方も抱えられる事で脇が痛かったりや職員との体の密着と等で感じる苦痛や不快感が軽減された。

【介護ロボットの導入効果】

※介護時間の短縮、直接・間接的な負担軽減効果、介護従事者(利用者)の満足度等を具体的に記載すること。

身体の方で2人介助でのトイレの方に使用し、1人介助で行えるようになっている。本人様もハグ使用で痛みもなく、とても満足されている。体の方や筋力低下の方の移乗介助をすることは、スタッフの身体的負担も多く、腰痛の原因にもなっており、スタッフの負担軽減になっている。2人介助の方を、1人で介助が行える事で、利用者の方を待たせてしまう事が減った。

4 その他

【介護ロボットの不都合な点等】

※介護ロボットの機能に関すること、使い勝手に関することなど具体的に記載すること。

認知症があり協力動作が難しい方、麻痺や拘縮がある方には使用が難しく、痛みがみられる時もある。十分に注意を払い使用できているが、短距離でも移動時に、利用者の方の手が離れて後ろに転落しないかの不安が少なからずある。